

令和 3 年

予算審査特別委員会会議録

[総括質疑]

- ・ 招 集 令和 3 年 3 月 1 0 日
- ・ 開 会 令和 3 年 3 月 1 0 日
- ・ 閉 会 令和 3 年 3 月 1 2 日

大空町議会予算審査特別委員会

予算審査特別委員会会議録

1 応招委員は次のとおりである。

1番 後藤 忍 7番 品田 好博

2番 三條 幸夫 8番 齋藤 宏司

3番 上地 史隆 9番 松岡 克美

4番 田中 裕之 10番 深川 昇

5番 原本 哲己 11番 松田 信行

6番 沢出 好雄

2 不応招委員は次のとおりである。

3 出席委員は応招委員と同じである。

4 欠席委員は不応招委員と同じである。

5 会議事件のために出席した者は次のとおりである。

町	長	教育委員会	教育長
代表	監査委員	農業委員会	会長

副	町	長	住	民	課	長							
総	合	支	所	長	福	祉	課	長					
会	計	管	理	者	福	祉	課	参	事				
総	務	課	長	産	業	課	長						
総	務	課	参	事	産	業	課	参	事				
総	務	課	参	事	建	設	課	長					
移	住	・	定	住	支	援	室	長	総	務	課	主	査

生涯	学	習	課	長	高校	・	認定	こども	園	推進	室	長		
生涯	学	習	課	参	事	高校	・	認定	こども	園	推進	室	参	事

監	査	委	員	事	務	局	長	選	挙	管	理	委	員	会	事	務	局	長
農	業	委	員	会	事	務	局	長										

6 職務のため出席した事務局職員は次のとおりである。

事務局長、主幹

7 会議事件及び議事日程は別紙のとおりである。

出席説明員の報告

1. 地方自治法第121条第1項の規定により説明のために出席する者は次のとおり。

町長	山下英二	教育委員会教育長	渡邊國夫
代表監査委員	近藤克郎	農業委員会会長	石田正俊

2. 大空町長の委任を受けて説明のために出席する者は次のとおり。

副町長	川口明夫	住民課長	星加政志
総合支所長	田中信裕	福祉課長	鈴木章夫
会計管理者	平田義和	福祉課参事	阿部雅浩
総務課長	林敏美	産業課長	作田勝弥
総務課参事	松川一正	産業課参事	中村直樹
総務課参事	塚原章裕	建設課長	高島清和
移住・定住支援室長	秋葉暢康	総務課主査	安念真人

3. 大空町教育委員会教育長の委任を受けて説明のために出席する者は次のとおり。

生涯学習課長	佐々木徳幸	高校・認定こども園推進室長	村山修
生涯学習課参事	菅野洋治	高校・認定こども園推進室参事	友西敦史

4. 大空町代表監査委員の委任を受けて説明のために出席する者は次のとおり。

事務局長 篁 充清

5. 大空町農業委員会会長の委任を受けて説明のために出席する者は次のとおり。

事務局長 井上 透

6. 大空町選挙管理委員会委員長の委任を受けて説明のために出席する者は次のとおり。

事務局長 篁 充清

7. 本議会の事務に従事する者は次のとおり。

事務局長 藤田 勉 事務局主幹 田中 学

以上のとおり報告する。

令和3年3月12日

大空町議会予算審査特別委員会
委員長 松田 信行

(再開 午後1時00分)

◎総括質疑

- ◇松田委員長 ただいまから予算審査特別委員会総括質疑を行います。
質疑及び答弁は一括質疑、一括答弁と一問一答の複合方式とします。
質疑は、審査区分ごとに1委員から一括して受け、その後、執行側からまとめて答弁を受けます。再質疑からは一問一答方式とします。
審査1区分ごとの1委員の質疑制限時間は30分とし、回数に制限はありません。しかしながら、総括質疑でありますので、各委員におかれましては、課毎の説明の際に質疑し、答弁のあった内容を再度繰り返すことのないようご協力ください。
質疑にあたっては、予算書、予算参考資料等のページ数を告げてから質疑をお願いいたします。

◎一般会計 歳入

- ◇松田委員長 これから、一般会計予算の歳入について質疑を行います。質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

- ◇松田委員長 これで、一般会計予算の歳入の質疑を終わります。

◎一般会計 歳出

- ◇松田委員長 次に、一般会計予算の歳出について質疑を行います。質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

- ◇松田委員長 これで、一般会計予算の歳出の質疑を終わります。

◎国民健康保険事業特別会計予算 歳入歳出

- ◇松田委員長 次に、国民健康保険事業特別会計予算の歳入歳出について質疑を行います。質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

- ◇松田委員長 これで、国民健康保険事業特別会計予算の質疑を終わります。

◎後期高齢者医療特別会計予算 歳入歳出

- ◇松田委員長 次に、後期高齢者医療特別会計予算の歳入歳出について質疑を行います。質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

◇松田委員長 これです、後期高齢者医療特別会計予算の質疑を終わります。

◎介護保険事業勘定特別会計予算 歳入歳出

◇松田委員長 次に、介護保険事業勘定特別会計予算の歳入歳出について質疑を行います。質疑はありますか。

(「なし」の声あり)

◇松田委員長 これです、介護保険事業勘定特別会計予算の質疑を終わります。

◎介護サービス事業勘定特別会計予算 歳入歳出

◇松田委員長 次に、介護サービス事業勘定特別会計予算の歳入歳出について質疑を行います。質疑はありますか。

(「なし」の声あり)

◇松田委員長 これです、介護サービス事業勘定特別会計予算の質疑を終わります。

◎簡易水道事業特別会計予算 歳入歳出

◇松田委員長 次に、簡易水道事業特別会計予算の歳入歳出について質疑を行います。質疑はありますか。

(「なし」の声あり)

◇松田委員長 これです、簡易水道事業特別会計予算の質疑を終わります。

◎下水道事業特別会計予算 歳入歳出

◇松田委員長 次に、下水道事業特別会計予算の歳入歳出について質疑を行います。質疑はありますか。

(「なし」の声あり)

◇松田委員長 これです、下水道事業特別会計予算の質疑を終わります。

◎個別排水処理事業特別会計 歳入歳出

◇松田委員長 次に、個別排水処理事業特別会計予算の歳入歳出について質疑を行います。質疑はありますか。

(「なし」の声あり)

◇松田委員長 これでは、個別排水処理事業特別会計予算の質疑を終わります。

◎総括的質疑

◇松田委員長 最後に総括的な質疑あれば許します。

なお、ここでの質疑は、先に行っている質疑を再度繰り返すことのないよう重複を避け、効率的な質疑を行うようお願いいたします。

これから総括質疑を行います。質疑はありませんか。2番、三條委員。

◇三條委員 はい、2番。いろいろ苦勞されて予算編成されているというふうに感じました。1点だけ、確認をさせていただきたいと思います。

大空高校の予算についてであります。新設校として、ある程度の生徒の確保ができて良かったなと思いますし、今後も多くの生徒が確保され目的を達成されることを期待したいと思います。

一方で、大空高校の令和3年度予算で、学校運営のための経常経費が2億5,000万円、町の一般財源が2億900万円、地方交付税分を引いた一般財源が1億2,000万円ということで、既存の高校の予算の2.5倍の財源になると思います。財政が厳しさを増す中、町民の皆さんへの影響が懸念されますが、その辺は心配ないのかどうか。

高校があることによるメリットも当然ありますから、単純に金額だけでは比較できないと思いますが、予算を編成するにあたって、町長並びに教育長のお考えを聞かせいただきたいと思います。

◇松田委員長 山下町長。

◇町長 高校の予算は今まで、道立と町立の2校をいろいろな形で支援をし、運営をしてまいりました。そのときから見ますと、今回、さまざまな仕組みが変わったとはいえ、町の持ち出しというものが増えたところでございます。

私、担当にも申し伝えましたけれども、そういったところはつまびらかに町議会の説明の中でするように、併せて、今後、町民の皆さんにもしていかねばならないと思ってございます。そこも含めて、私は覚悟を持って、道立と町立2校を1校にするという判断をしたつもりでございました。

町民の中からはいろんなご意見をいただいて、極端な例で言いますと、お金も掛かるんだし、もう両高校とも諦めてなすがままと言いましょか、なるようにしかならなのではないかという意見もありましたけれども、やはり教育の町として、まちづくりを進めてきた東藻琴村、女満別町、この歴史を今後も紡いでいくためには、一つであっても高等教育の場が必要であるとそういう覚悟を持って、統合に、さらに予算編成に取り組んだところであります。

今回応募していただいた子ども達は全員で30名ということですが、町外からの生徒が多く、町内からはまだまだ子ども達に十分理解、認知され

ていない状況もあるのではないかと。

今後の目標は町内の子ども達にも魅力を持って通っていただける、そういうところをしっかりと伝えて確保していかなければならない。その中で、今回の予算のことについても論じていかなければならないのではないかと、そのように思っております。また、スタート時点でありますので、これくらいの規模の予算が必要であろうというところで予算を計上しているところもあります。これを実際に運営していく中で、どういったところで節約ができるのか、そういったところも今後は考えていかなければならないものと思っております。

まだ、スタートを切ったわけではございませんので、今回の額がどのようなところに位置するかというところは十分判断できないところでもありますけれども、私といたしましては、おおよそ想定の範囲内の予算であったと、当初としてはそのように思っているところでもあります。

実際の運営をする中で、どのように効率化を進めながらさらに魅力を高めていくか、今後は、そういったところにも力を注いでまいりたいと考えております。また、ご質問をいただきました視点については、町民の皆様にもつまびらかにしながら、ご理解を得るようにこれからも努力をしてまいりたいと存じます。

◇松田委員長 渡邊教育長。

◇教育長 私からもご答弁を申し上げたいと思います。

大空高校の予算、2億5,000万円という大変大きな予算総額となりました。大空高校に発展的に統合するということでの4月からの新高校のスタートということをございますけれども、女満別高校、また東藻琴高校として、入学された生徒さんとともに、新しい大空高校の生徒としてスタートするということをございまして、実質は一つの高校とは言いながらも、三つの高校の運営に係る経費といった形での今回の予算総額ということをございまして、本来の大空高校の形になっていくのには3年かかるというようなこともあろうかと思えます。

そのような過渡期の中での初めての高校予算ということをございまして、今後適切なランニングコストとなるように血税を大事に使うような、そういう経費運営に努めていく必要があると、そのように私も感じているところをございます。

また一方で、町立として大空高校を新たに開設をしようといったその大本にありますのは、町の総合戦略として地域の発展、また、地域の活性化を担う人材を大空町自らがしっかり育てていくということをしなないと行政としての存続自体が大変厳しいものになるであろうと。総合戦略の中にも位置づけた中での高校づくりということをございますので、多くの地域の皆さんからの期待に沿った高校となるよう教育の質を高めながら全国に誇れる、そういう高校とすることが教育委員会としての使命ではないかなと、そのように考えているところをございます。

◇松田委員長 2番、三條委員。

◇三條委員 はい、2番。町民の皆さんが多少のことは我慢してでも高校を支えたと、応援していくというふうに言っていただけるように、ぜひ努力していただきたいなど。

先ほど町長からお話しがありましたように、高校の運営にあたっての経費、財源等、これは細かく、時期を見ながら、町民の皆さんにお知らせをしていただきながら、町民の皆さんが高校ができて良かったなということと、多少のことは我々我慢しようよ、高校を支えようと言うようになるように、ぜひ努力していただきたいなと思います。

◇松田委員長 山下町長。

◇町 長 十分そういった視点も大切にしながら取り組みたいと思っております。この高校を再編していく議論の中で、町民の方々からさまざまなご意見をいただきました。非常に熱い思いというものを語られる方がたくさんいらっしゃったように思います。

その中で、大空町における高等教育は必要だと、しっかりとそれを支えるために頑張るといような声も沢山いただいたところでもあります。そういう声に後押しをされて、現在の一校体制、現在の形になっていると、そのように私は感じてございます。

この高校は、決して高校だけが頑張れば魅力あふれて子ども達が集まってくる、そういう高校ではありません。地域とともに共生していく、そういう高校でなければ魅力も高まりませんし、生徒も集まらない。また、町民の方の支援もいただけないと、そのように思っております。

学生はもとより、教職員、そして地域の方々と力を合わせて作る高校、それは皆さんの心の支えになるものと、そのように信じております。そういう高校になるべく、またしていくべく、これからも努力をしてまいりたいと思っております。町民の皆様の支えと協力をこの場を借りて改めてお願いを申し上げて新しい高校の抱負としたい、そのように思います。

◇松田委員長 ほかに質疑ありませんか。3番、上地委員。

◇上地委員 はい、3番。総括質疑をさせていただきたいと思っております。

女満別空港についてですが、道内7空港、女満別空港も含めて、北海道エアポートのもとで民営化が完了し、3月1日より新しいスタートを切りました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、航空の需要が低迷しており、大変苦しい船出となっているのではないかと感じております。実際、投資についても、5カ年で1,000億円投資する予定が中期計画の見直しで500億円まで下がってしまいました。それは大変残念なことではありますが、いたし方ないのかと思っております。

その中でも、2月10日よりLCCピーチの成田便が就航したということは大変素晴らしいことだったのではないかと。町としてもしっかりと支援をしていただきたいと思いますし、私たち自身も大変期待をしていきたいと思っております。

その中で、今後、将来空港を中心としてどのようなまちづくりをしていくのか。どのように今後未来を描いていくのか、町長から改めてお考えを聞かせていただけたらと思います。

◇松田委員長 山下町長。

◇町長 新しい空港の船出とコロナウイルスの感染が重なり、大変厳しい船出となっているのはご承知のとおりだと思います。新しい北海道エアポートの蒲生社長が、その会社ができた式典のときに、飛行機というもののは向かい風でなければ飛び上がれない。この状況の中で向かい風を上手に利用して、そして大空に羽ばたきたいと、そういう挨拶をされたところであります。

それから数カ月後にお会いしたときに、そうは言いましたけれども、向かい風が強過ぎてなかなか大変ですと、そういう声も正直なところありました。

女満別空港においては、既存の路線が休便となったり、また減便となったり、いろいろなところでほかの空港と同様に大変厳しい状況に置かれているところであります。

その中、2月10日には新しい航空会社として、ローコストキャリアLCCと言われるピーチアビエーションに成田便の就航をいただいたところであります。今後はピーチアビエーション、もう一つの拠点としている関西空港にも乗り入れを多数しておりますので、そういった路線の開設についても要望してまいりたいと、そのように考えているところであります。

空港と大空町との関係は非常に長く、もう数十年に及ぶわけでありまして。まちづくりの中で空港の占める役割というもの是非常に大きなものとなっております。実際に女満別空港に降り立った方々、過去には素通りをして、いろいろなところに真っすぐ行ってしまふ。いかにそういった方々をこの町に留めるかということが大きな課題であると、そのように言われてきております。

さらに現在は、まだ北見側一部でありますけれども、高速道路が空港から約10キロ北見方面に向かって伸びておりますし、さらにその先、北見まで今後繋がっていくということの見通しが立っております。さらに網走に向かって、さらには知床に向かっての計画も段々と現実を帯びてきていると。その中で、私が思いますには空港を降りる方々、利用される方々、それをいかに女満別のこの市街地を経由をさせるか、そのためには、この市街地の中の土地の活用の仕方、どのようにそういったお客様を一時立ち寄らせるか、そういったことが必要ではないかと常々考えております。

高速道路ももちろんでありますけれども、そこを利用されるにあたって一度はこの地域に足を向けていただく、その工夫が大切だと。そのようなこ

とで新しい年度の予算の中では、町の中の土地利用をもう一度改めて見直して、いったいこの地域の中に何を備えなければ空港を利用される方々が一旦この地域に足を向けていただけるか、そういうものを一つ、バイブルとして作っておきたい、そのように考えて若干ではありますけれども予算を計上させていただいたところであります。

地域の商工事業者の方々などともご意見を交換しながら、そういった形、指針を作りながら、その空港のお客様を将来的にはしっかりと取り込んで行く。道路利用される方であっても、一旦町に足を向けていただくような、そういう仕組みを作る。そのためには町の中の土地の利用と、さらには今私が考えているのは、女満別の郊外部分にあります道の駅を上手に結びつける、そういう仕組みを考えておかなければならないのではないかと、そのように考えているところでございます。そういったことへの将来に向かっての道筋というものを令和3年度、しっかりと議論をしてみたいと、そのように考えてございます。

その考え方については、議会からもさまざまなご意見を頂戴しなければならないものと思っておりますので、ぜひその節にはいろいろなご提案、ご意見を頂戴いたしますようお願いを申し上げます。

◇松田委員長 3番、上地委員。

◇上地委員 はい、3番。町長より、空港周辺の土地の利活用についてお聞かせをいただきました。高規格の話も出ました。予算委員会の中でも聞きましたが、町長が言われたように、一刻も早く端野そして高野間を整備していただきたいと。そして網走まで延伸する計画もあります、やはり空港線3・3・2を活かしたまちづくりをしていただきたい。実際に町長のトップセールスによって誘致して来ていただいた企業が、道が一本変わるだけで本当に通りすがりの町になってしまうのではないかと。また今回の策定にあたって課題でもあったように、市街地に、いかに商店街に人の流れを作るかという課題もあると思います。そのことについてしっかりと検討して行っていただければと思います。以上で終わります。

◇松田委員長 山下町長

◇町長 前に国土交通省の職員の方とお話をしましたときに、女満別空港のところに乗り入れしている高速道路は、全国で空港に1番近いインターチェンジになると。今はインターチェンジと言えるほどのものではありませんけれども、そういうことをおっしゃってありました。

私が考えますには、この女満別の市街地の南隣にそういった高速道路の降り口があり、空港がある。一方で、市街地から北側に約2キロ向かったところに道の駅があると。町を中心に1カ所の乗り降り場所しか道路としてなければ、なかなかそのところに足を向けるというのは難しいと思いますけれども、出入り口が二つあることによって、例えば空港のところで降りて、さ

らにはそこで乗って、そして町中を経由してもう一つの出入り口からまた出入りをする、そういう感覚というのはあるのではないかと。

まして女満別空港からこの女満別の市街地の中心部まででも4キロない程度でございます。そのように考えると、通常のほかの空港から見ますと、市街地に向かって非常に近い距離にある。その土地を有効に使わなければならない。もうすでにこの女満別のこの市街地は空港の隣接地だという発想で人を取り込んでいく、そういうことをしていかなければならないのではないかと、そのように考えてございます。

なかなか私どもだけでできるわけではありません。国土交通省が進める道路、またさらには、北海道エアポートが進めるその空港整備、しかしそこと相まって、空港の周辺地としての考え方、そこをしっかりと持たなければならないと、そのように思っております。

そういった関係機関が進めるそれぞれの計画にマッチしたそういうこの市街地の活用というものをこれからさまざまに提案してまいりたいと、そのように考えているところでございます。ぜひこれからもご意見を頂戴いたしますようお願いを申し上げたいと存じます。

◇松田委員長 ほかに質疑はありませんか。5番、原本委員。

◇原本委員 はい、5番。3点ほど総括質疑にあたり意見並びに考え方を聞かせていただきたいと思っております。

まず1番目、情報通信ネットワーク関係についてです。今年度で長年待たれていた農村部への光ファイバー通信網の整備も終わります。今年度の予算の中で、幾多の分野で触れています情報の整備、ネットワークの整備ですとか、町民に対する情報の出し方、いろんなことが今年度の予算の中にも入っていました。そんな中で、これからいろんな情報を携帯なり、タブレットなり、いろんなどこに表示して町民に見やすくしていくことが大切だと思いますが、それが、一つずつではなく、トータル的に本当に見やすい、それから手が出しやすい、そういう整備をしていただきたいと思っております。これが1点目です。

2点目、防災ステーションの整備は去年からすでに土盛りから始まっています。昨年、私たち議会でも10月に3カ所の防災ステーションの見学に行ってきました。その中で、議会としても3カ所見た中でこういう形がいいとか、こういうことを防災ステーション中でしてほしいという意見も出しています。さらに今年からいよいよ本格的な、どういう形になっていくかという計画が進められていくと思うんですけども、その中で町民の意見も十分配慮して、私たちが出していけるものは十分聴いてもらえる、どういうふうになっていくかを、進展の度合いが見えていく中で進んでいってほしいと思っております。

せっかく、国と、おそらく当町でも4億円なにかしのお金を出すことになると思うんですけども、総額15億円ぐらいだと思いましたが、何とか本当に有効な防災ステーションになっていくためにその辺をお願いしたいと思っております。

3点目、教育委員会に道から友西参事が派遣されて2年経ちました。二つの高校の合併、そして大空高校の開校、また他の事務において大変なご尽力をいただいたと思います。その辺について教育長の意見を聞かせていただきたいと思います。以上です。

◇松田委員長 山下町長。

◇町 長 地域の、特に農村部の情報通信網の整備、いろいろ地域から要望をいただいて10年以上が経過しております。なかなか紆余曲折ありまして、衛星でやってみたり、無線ができないかというところで議論をさせていただいたりしましたけれども、やはり最後は光ケーブルを敷設してということで、今年度取り組ませていただいて、もう間もなく国の審査も終わって引き渡しができるのではないかとこのところまで来ました。周辺の市町村においては、主に今年度から来年度にかけての事業ということで、1年遅れになるところがほとんどではないかという中で、1年でも早く整備ができたことは大変ありがたいことだと、そのように思っております。

引くまでが私どもの仕事ではなくて、もう少しそれを有効に活用するということが必要なことではないかと、そのように受けとめております。

一つ、生活のところでは、現在いろいろ議論をさせていただいて予算も計上させていただいております安心生活を構築するために、いろいろな情報発信をしたりする仕組み、また機器類の整備、そういったものを検討させていただいているところでもあります。こういったものについては使われる方々が若い世代からご高齢の方々まで多種多様にいらっしゃいます。また、町民の中でも、使う情報とそうでない情報、人によってさまざまだと思います。そういうことを考えますと、今思いますのは、いかに使いやすいか、それを利用しやすいかということが最も必要な要素ではないかと思っております。現在、担当のほうでは数社にプロポーザルを実施するというこの段階取りでいろいろ進めているようでありましてけれども、その中の重要な要素というのは使いやすいか、いかに多くの方に使っていただける仕組みなのか、システムなのかということも重要視して判断をしていってほしいものだなと、そのように感じているところでもあります。

また一方で農業分野などでも非常に期待される場所があります。先進の地域においてはすでに実証実験と称して無人でトラクターを運行する、そういうようなことをどんどんと実施しているところがあります。また併せて、ドローンなども導入して機械化、省力化を進めるというところ。こういったものは、単に一農業者だけの個人個人の力では十分でき得ないだろうと、そのように思います。農業機関と私ども町、また、農業者の方々に入ってもらって、そして、議論をしてこういう仕組みを作る、こういうやり方をする、そういうことは議論をして一つ一つ形のあるものにしていかなければならないとそのように思っております、そういうことを勉強し、一つ行動に移していくための組織づくりというものも新しい年度の課題になるのではないかと思っております。

そんな中で、この情報通信網、せつかく整備をいたしたものを有効に活用するということに第一歩を進めてまいりたいと思っております。

防災ステーションの関係につきましては、国の事業ではありますけれども、町も使わせていただくということで、アロケーション、コラボレーションしながら、現在その整備を進めているところであります。

国が事業主体ということもありまして、非常に私どもが想像するよりも時間が掛かっているところがあります。それだけに町民の皆さん方の遅々とした中でなかなか進まないなあという思いと、自分たちの意見がどこで反映されるのかというご心配もあるのかと思います。いろいろいただいておりますご意見で相反する意見もありますので、すべてを網羅させるわけにはいかない部分もあろうかと思っておりますけれども、できるだけそれを取り入れた中で作っていく、それが今の公共施設の整備のあり方ではないかと、そのように思っております。そういったことを何回かキャッチボールをしながら皆さんの意向を取り入れる努力というものは今後も行っていきたいと思っております。

令和3年度につきましては、具体的な工事の部分というのは、それほど多くないというふうに考えておりますので、実際のその使い勝手のことに関する計画といいたししょうか、そここのところの議論を進める絶好の時期ではないかと、そのように思っております。皆さんにご利用いただける河川防災ステーションというものを目指してまいりたいと思っております。議会からもいただいているご意見を整理いたしまして、どのような方向性でできるか、しっかりとご回答含めて行っていきたいと、そのように思います。これからもご提言いただきますようお願いを申し上げます。

◇松田委員長 渡邊教育長。

◇教育長 3点目のご質問について私からご答弁をさせていただきたいと思っております。

女満別高校と東藻琴高校の発展的統合の方針が決定されてから、大空町では北海道教育委員会に対し、新しい高校づくりにあたっての支援要望を平成30年度に行っております。具体的な要望内容としては、高校開校準備のための人的要望のほか、財政的な支援についても併せて行ったところがございます。そのような要望に対しまして、道教委から特段のご配慮をいただき、人的支援として令和元年度から東藻琴高校に教員2名の増員配置をいただくとともに、教育委員会に行政職1名、友西参事でございますけれども、派遣をいただきまして、派遣期間であります2年が経過しようとしているところでございます。

高校開校にあたっての準備業務は多岐に渡っておりまして、正直申し上げて経験のない私どもとしては何から取り組めばよいのか、分からないところからのスタートとなりました。そのような中、道教委の管理職として、これまで豊富な経験と実績を積み上げてこられた友西参事を大空町にお迎えすることができ、大変心強く感じるとともに、数々のご指導をいただき、まさに

高校開校業務の司令塔としてご尽力をいただいております。

主に携わっていただいた業務としては、道教委各部局との連絡調整をはじめとして、教育課程の編成、また新しい高校づくり推進委員会の運営事務、女満別高校校舎の改修工事や校舎及び教員住宅の払い下げ事務、新高校の体制整備業務、また東藻琴高校校舎及び寮の一部改修業務、高校開校後の人的財政的要望事務、さらには、高校関係条例・規則等の制定事務など数多くの事務に昼夜を問わず精力的に取り組んでいただきました。その仕事ぶりの基となっておりますのが、友西参事が長年教育行政職として道教委で培ってきた知識やノウハウ、また経験であり、大いにその威力を発揮していただいたと、そのように思っております。おかげさまで校舎・教員住宅の無償払い下げであったり、道教委からの人的支援をいただいていた新高校の体制など、大空町の多くの要望を実現していただきました。多大な成果を上げていただいたことに心から感謝をしているところでございます。

また、道教委との太いパイプができたことも大きな成果の一つと捉えておりまして、今後とも友西参事はもとより、道教委のご指導を仰ぎながら、大空高校が全国に誇れる高校となるよう、しっかりと取り組んでまいりたいと考えてございます。以上、ご答弁とさせていただきます。

◇松田委員長 山下町長

◇町 長 北海道教育委員会から職員として来ていただきまして、いろいろ頑張ってやってくださいました。

私の率直な感想でございますけれども、身分的には、北海道教育委員会の職員であり、この2年間の派遣という形で来られましたけれども、大空町の職員として、町の立場を代弁して随分と一生懸命やってくれたと、そういう印象でございます。私は気が弱いので、教育委員会、道教委へ行って、なかなかあれもこれもやってくれと要望をできないほうなんですけれども、友西参事が作った文面、これを町長要求してくださいと言う文面を見ると、ここまで要求して大丈夫なのかと、ちょっと言い過ぎでないか、ちょっと凶々しくないかと、思われるぐらい随分思い切って要望を書いてくれておりました。言われたとおりといいましょうか、それを分かったよということで道教委に伝えて今までも何回となく要請書を持ってまいりましたけれども、結果として、ほぼ、9割方実現しているという状況にあります。いらっしゃらなかつたら、なかなかここまではいろいろな条件をといいましょうか、引き出すことができなかつたのではないかなと、そのように感じたところでございます。そういう意味で、北海道教育委員会は間違えた人事をしてうちに職員を派遣してくれたのではないかなと。私どもとすれば大変ありがたかったと、そういう印象を持ってございます。

これをもって、私なりのご答弁とさせていただきたいと思っております。

◇松田委員長 ほかに質疑ありませんか。8番、齋藤委員。

◇齋藤委員 はい、8番。総括にするにあたって、どういうふうに聞いてみよ
うかなと思って考えておりました。コロナが始まってちょうど1年が経ちま
した。本当に今回のコロナに向けての予算作成大変だったと思います。

その中で自分が一番思うのは数字的なことは形では表わせるんですが、自
分が一番思うのは、人と人との繋がりなんですけども、それが一番、凄く見
えないです。最近やっとワクチンができて、少しは良くなるのかなと思いま
す。これでオリンピックもできてさらに深まるのかな。その中でやっぱり今
自分でも思っていて、隣ではっきり言えば何しているか分からない。という
のはやっぱりコロナがあるし。とって集会もない。集まりもない。その中
で、これで収束して今までどおりのつき合いができるんだろうか。それが本
当に心配なんですよね。数字的には、いろんなイベントも開催します。いろ
んな形で、今回予算の査定にありますけども、これでまた伸びたらそれもな
くなる、そうなるといつもニュースで見て、今年は自殺者がすごく多い、す
ごくそれも分かるような気がします。人間ってやっぱり本当は三密、三密
は良くないと言われるんですけど、三密があって良いこともかなりありま
す。その中でこの予算遂行して行って、コロナがもし収束して、その中で、
最初にどういう形で、皆さんと町民と職員と議員と繋がっていけば一番いい
のかなと。何を聞いて良いんだかよく分からないのですけども、一番身近に
感じるのは、今そういうところなんです。本当に町長としてはどう思うのか
なというのを一度聞きたいなと思っていたんですけど、まずどうでしょう。
難しいですね。

◇松田委員長 山下町長。

◇町 長 コロナというウイルスが世界中を接見して、日本では三密の回避
などという言葉が出ました。今まで大切にしてきた人と人との触れ合い、そ
れを希薄にしないで、薄めなさいということが今時点では美德となっており
まして、今まで言ってきたこととは正反対ではないかと、そのように感じて
おります。私は寂しい思いをする者の一人であります。

しかし、場合によっては、今回は一つの契機として、自分たちのやってき
たことをもう一度見つめ直す機会にはなるのではないかと、そのように考え
るところもございます。

また、町政執行方針の中でも書かせていただきましたけれども、その三密
を回避するということが、寂しい部分もありますけれども、一方では、ひょっ
としてこの私どものような田舎のともと密ではなく疎の地域から見ると、
ある意味それを上手に取り込めることもできる、そういう場面でもあるのか
もしれないと、そんなふうにも感じます。

正直申し上げて、どんなふうこれから人の気持ちがなっていくかという
のは計り知れないところがありますけれども、どうであっても、私どもはま
ちづくりに携わっている人間でありますので、その状況を捉えながら、その
時代にあって、まちづくりをどのように進めるか、それを議論していかなけ
ればならないと。ただ今までのことがすべて当たり前で、良しとするという

ことではなくて、ここのところで一度立ち止まって考えざるを得ないような、そういう機会を今回の試練の中でいただいたのではないかなと、そのように受けとめております。ですので、今回のコロナ、大変ではありますけれども、決してマイナスのことばかりではないと、これを一つの糧として、次に繋げていかなければならないと、そういう面で捉えていきたいなど、そのように感じているところであります。十分な答弁にはなりませんけれども、今、私の考えていますというか、感じているものとしては、そのように捉えて、どんな時であっても、前に向かって何かしらできることはないかということをやっ払いこうと、そのように考えているところでございます。

◇松田委員長 8番、齋藤委員。

◇齋藤委員 はい、8番。思っていた通りの答えをいただきましてありがとうございます。まさにそのとおりだと思います。本当にいつまでも思い悩んでも前に進まないし、変わらないと思います。

今言われたとおり進んでいきたいと思いますが、じゃあどうすると言われて、本当にいろんな形で思いますけど自分個人的にはもし収束したら町民みんなで、昔やった町民ビッグデーでも思いっきりやりませんか。以上です。

◇松田委員長 山下町長。

◇町 長 そういう発想も出てこようかなと思います。ただやり方も多分いろんなことで、従来のままというわけにはいかないのかなと思いますけれども、久々にそういう機会を作ることによって、同じ町内に過ごしている方であって、やあやあ久しぶりだねと、何カ月ぶり、いやもう1年以上になるのかねと言う人と顔を合わせることもできるかもしれません。そういうこともできるように頑張っているいろんな企画を考えていければありがたいなと思っております。

ぜひそういう前向きな発想といいましようか、ご提言もこれからも頂戴いただきますようお願いを申し上げたいと思います。ありがとうございます。

◇松田委員長 ほかに質疑ありませんか。10番、深川委員。

◇深川委員 はい、10番。大変コロナ禍の厳しい中で予算の編成にあたっては大変かと思われれます。それぞれの予算の中で、できれば予算以上の成果を出すように、それぞれお願いをしたいと思っております。

ただ、前回も申し上げましたが若干気になることがあります。合併後、もう10年を過ぎてきたわけではありますが、PRそして知名度の発信力の弱さを指摘したいと思っております。宣伝媒体が大きく変わってきております。今までの媒体からSNS、ネット、フェイスブックなど、まだまだ媒体が多いわけですが、このコロナ禍の中で、日本国中トーンダウンしています。個人的な意見ですが、PRは今がチャンスだと思っております。国でも推進

している縦割りから横の連携へという、そういった中のものを活用しながら、いかにPRをしていくか、移住・定住推進室なども作られ大変頑張っております。そういった方面に向けて、いろんな良い素材が揃っていると思いますが、午前中までの予算委員会の中でチャンスがあるときに、魅力、発信力そういったものはないかという意見をお聞きしたわけですが、中々それぞれの課毎で大変忙しいこともあって難しいのかなと思いますが、そういった横の連携を含めて今後、大空町の大きなビジョンとして、目標を持っていただきたいと思いますが、町長のお考えをお聞きしたいと思います。

◇松田委員長 山下町長。

◇町 長 ピーチアビエーションがこのコロナ禍の中、航空需要が先細りする中で、成田空港と女満別空港を結ぶ路線を開設をしてくださりました。一般論から見ると大変無謀な取り組みではないかと、そういうふう感じていらっしゃる方もいるのかと思います。ただ、内情を聞きますと、航空会社として、航空機をもって運行を旨としている会社にあつて、需要が少ない、だから飛ばさない、飛ばさなければ収益は上がらない、従業員に給料も払えない、その中で国際線は全く難しいのでいかに国内の路線を今のうちに拡充して、コロナが収束したときには皆さんに乗っていただけるものを準備しておくかと、そういう心構えといいましょうか、取り組みで女満別路線をスタートさせたいんだというのがピーチの森CEOの話でございました。

私も、発想とすればそういう感がございます。今回、2年度予算でしたけれども、札幌の地下歩行空間に大きな芝桜公園の巨大な看板というのでしょうか、そういったものを設置させていただいております。3月の末、27、28日ぐらいまで掲示されております。確か縦が2メートルぐらい、横が15メートルということです。今までそんなことはしたことはありません。今までのことであれば、担当が持って来たら、いやいやそこまで金かけられないんじゃないかと。正直、なかなか踏ん切りがつかなかったかもしれません。しかし、人々の気持ちが非常に塞ぎ込んでいる中で、春を知らせる大空町東藻琴の芝桜、これは、いろんな方に見ていただきたいと。今年は大きなイベントこそ実施するつもりはありませんけれども、何とか三密回避を行いながら動線をしっかりと作って、そして来場いただける方、見ていただける方には楽しんでもらえればありがたいということで取り組んだところでございます。

また、移住の関係のホームページ、これも例年いろいろお金を掛けておりますけれど、さらになんとか魅力アップを図りたいということで、予算も計上させていただきました。

さらに、都市部ではいろんな研究者の方々、企業の方々、そういった方々を中心に、このコロナ禍にあつて、さらにそのコロナの後を含めて、地方への移住だとか、ワーケーションだとか、リモートワークだとか、そういったものがどんどん出てくるのではないかと、そういったものの研究会を立ち上げようではないかと、というお話がございまして、私にも声を掛けていただき

ました。最初担当が持ってきたときには、いや町長これはどうでしょうか、まだ、海のものとも山のものともなかなか判断がしようがないんですがと言う話でしたけれども、私は即座に、せっかく声を掛けていただいたのなら参加をさせてもらいたいということで、市町村長としては、私一人だそうであるとは企業の方々や研究者の方々でありますけれども、そういうところに顔を出して発信をする、情報を出す、地方の現状を訴える、そういうことが企業の方々の耳に入り、また研究者の方々の目にとまり、そして大空町というところの町を知ってもらう、そこに足を向けてもらう、情報収集してもらう、そういうところにも繋がるのではないかと、そのように思いまして参加をすることにいたしました。

そういう中で、この大空町をしっかりと、こういう時期だからこそ、私どもの町の良さというものをPRする、そこに努力を傾注してまいりたいと、そのように取り組んでいるところでございます。

まだまだ至らないところもありますけれども、そういう努力もお認めいただきながら、今後またご助言をいただければありがたいと思うところでございます。

◇松田委員長 10番、深川委員。

◇深川委員 はい、10番。心構えをお聞きしまして、着々と進んでいるのかなと思います。ただ、この大空町、大変失礼な言い方をいたしますが、空港があるのが当たり前になってしまって、この価値感を忘れかけているのかなと。以前空港がなかった町としてはそう思っ見ております。素晴らしい財産で、ほかの地域には全く引けを取らない大きな財産かと思っております。いかに活かしていくかというのは、やはり大空町ではないかなと。私は個人的にそういった知恵は持ち合わせておりませんが、そういった知恵を持った方々が沢山いらっしゃるのではないかなと、そのように思います。

先ほど前出の議員から高規格道路の件も出ておりました。こういったまちづくり、道路づくりといいますが、できれば絶対、高規格を作らざるを得ないようなまちづくりにしていただきたいと、このように思います。

また、午前中の教育委員会の説明の中でも、決してほかの町に劣らない子育て支援、教育支援は、素晴らしいと思っております。こういったことも含めて、いろんな形の中で、大空町の魅力を一本化して、一貫性を持たして、指針をもって、それに素晴らしいものを肉づけをしてPRしていくという、そういった方法はいかがかと思えます。せっかく移住・定住推進室もできております。今頑張っておりますので、そういったところから情報が一本化できるような考え方を持っていただければと思えます。

我々老兵は去る時代でございますが、今後については、第7世代が活躍をする時代です。そういった人達に向けてのインパクトのある、独自性のあるまちづくりをお願いしたいと思えますが、ご所見をお願いしたいと思えます。

◇松田委員長 山下町長。

◇町長 教育委員会の作成するものの中に社会科の副読本というものがあります。通常の教科書のほかに、いろいろなその地域の産業や、教育や福祉や、そんなものをいろいろと、つまびらかにして子ども達に自分達の町を教えていく。そして、きっと私が思いますのは、そこから郷土愛というようなものを育てることに繋がってもらえればと、そういう内容でもあるのかなと思っております。私の家内、佐呂間町ですけれども、佐呂間に栃木という地域がありまして、その栃木地域というのは、足尾銅山の鉍毒事件で、そこに住めなくなった方々が地域としてまとまって移住したのが北海道の佐呂間町で、栃木という名前をつけたというのを佐呂間町社会科の副読本には載っていたという話を聞きました。

社会科副読本の話ではないですけれども、新しい年度の予算で偉人漫画物語と言うんでしょうか、この地域の偉人をターゲットにして、漫画で歴史、その偉人を中心とした歴史を紹介するというものの予算を300万円ほどつけさせていただいております。それは、この女満別空港ができ上がったその歴史に触れて、そこができ上がるまでの歴史的背景を含めて漫画で紹介しようというものでございます。女満別空港、私どもの町にありますけれども、その成り立ち、どれほどの方がご存じか、やはり地域の方々がその歴史も含めて十分承知していなければ、そこに対する愛着も、また、そこに対するその興味も関心も持たれないということではないか。子ども達の教育を通じながら、まずは町民にしっかりとその女満別空港に今至っているその歴史、経過、そういったものをしっかりと伝えて、そしてその空港に対する愛着心というものを育ててまいりたいと、そのように思っているところであります。

また、先ほど言いましたように、情報の分野でいいますと、いろいろな課が福祉の情報、観光の情報、移住の情報を出しています。それぞれの専門部署がつくることというのは仕方のないことではありますけれども、できれば情報発信をするその窓口となるところは一つにしたほうがいいのではないかと、そのように感じているところでございます。そうでなければ、それぞれの部署の濃淡があって、力の入れ方も変わってくるということもありますので、内容のことはそれぞれの課で作っていただきながらも、発信するいろいろなものをどのように効果的にどういった形で発信するか、その窓口を新しい年度一本化していきたい、そのように考えているところであります。何かの新しい組織ということではありませんけれども、しっかりと窓口を定めてそこを經由して、全国に、また世界に発信をする、そういう取り組みを行ってまいりたいと、そのように考えてございます。そういった中で、大空町の情報をいろいろなところに、さらに拡散させるように努力をしてまいりたいと、そのように考えます。

これからもまた折に触れ、そういった中でのご指導いただければありがたいと思うところでございます。

◇松田委員長 10番、深川委員。

◇**深川委員** はい、10番。期待をしております。本当に先ほども申しましたが、あまり大きな声では言えませんが、日本国中どこもトーンダウンしています。いかに今後情報発信をしていくかというのが大きなチャンスだと私は個人的に思っております。またこの大空町としては、子育て支援、認定こども園から始まり、大空高校の開校、そして高規格道路、そしてJRなど、また、その他いろんな交通機関の情報網もありますけれども、今後に向けてそういった宣伝の窓口といたしましょうか、そういったものの一本化をしながら、また、希望として残っているのが未知と言われる住吉作業所、これは将来において大きなビジョンになる可能性があります。それをいかに活かしていくかが今後の問題だと思います。そういったものも含めて、今後のまちづくりに大きな期待を寄せて、質問を終わらせていただきます。

◇**松田委員長** 山下町長。

◇**町長** 私どもの町には、さまざまな個性、特色、また、可能性を秘めた要素というものがあろうかと思えます。まだまだ十分に情報発信できずに、またそれを活用できずにいるところにジレンマを感じる場所もごございます。そういった皆さん方の声を一つにまとめながら、新しいまちづくりの道しるべをしっかりと作ることに、これも私の役割ではないかと思っております。今できることと、将来に向かってしておかなければならないこと、そういったことを常々考えながら、この予算の執行やまちづくりそのものに取り組んでまいりたいと思っております。ぜひこれからもご指導いただきますようお願いを申し上げます。

◇**松田委員長** 他に質疑ありませんか。

(「なし」の声あり)

◇**松田委員長** 以上で、本委員会に付託されました議案第28号、令和3年度大空町一般会計予算から議案第35号、令和3年度大空町個別排水処理事業特別会計予算までの8件すべての質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

◇**松田委員長** 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

ここでしばらく休憩します。

委員各位は議員控室にお集まりください。再開はブザーをもってお知らせします。

(休憩 午後2時00分)

(再開 午後 2 時 0 8 分)

◇松田委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

これから一括議題として審査してきました議案第 2 8 号、令和 3 年度大空町一般会計予算から議案第 3 5 号、令和 3 年度大空町個別排水処理事業特別会計予算までの 8 件について採決します。

まず、議案第 2 8 号、令和 3 年度大空町一般会計予算を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◇松田委員長 異議なしと認めます。よって、議案第 2 8 号、令和 3 年度大空町一般会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、議案第 2 9 号、令和 3 年度大空町国民健康保険事業特別会計予算を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◇松田委員長 異議なしと認めます。よって、議案第 2 9 号、令和 3 年度大空町国民健康保険事業特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、議案第 3 0 号、令和 3 年度大空町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◇松田委員長 異議なしと認めます。よって、議案第 3 0 号、令和 3 年度大空町後期高齢者医療特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、議案第 3 1 号、令和 3 年度大空町介護保険事業勘定特別会計予算を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◇松田委員長 異議なしと認めます。よって、議案第 3 1 号、令和 3 年度大空町介護保険事業勘定特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、議案第 3 2 号、令和 3 年度大空町介護サービス事業勘定特別会計予

算を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◇**松田委員長** 異議なしと認めます。よって、議案第32号、令和3年度大空町介護サービス事業勘定特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、議案第33号、令和3年度大空町簡易水道事業特別会計予算を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◇**松田委員長** 異議なしと認めます。よって、議案第33号、令和3年度大空町簡易水道事業特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、議案第34号、令和3年度大空町下水道事業特別会計予算を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◇**松田委員長** 異議なしと認めます。よって、議案第34号、令和3年度大空町下水道事業特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、議案第35号、令和3年度大空町個別排水処理事業特別会計予算を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◇**松田委員長** 異議なしと認めます。よって、議案第35号、令和3年度大空町個別排水処理事業特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

ただいま本委員会で可決しました議案第28号から議案第35号までの8件の審査結果につきましては、委員長において報告することにしたと思います。

これで、本委員会に付託された事件のすべての審査が終了しました。皆様のご協力により定められた期間内に審査を終了することができ、深くお礼を申し上げます。

これで、予算審査特別委員会を閉会します。皆様大変ご苦労さまでした。

(閉会 午前2時13分)